



子どもとメディア 北海道

第50号
2022年
10月発行
今期第2号

前号で、情報誌50号の節目として、北海道の児童生徒のネット・ゲームの長時間使用に対して「子どもとメディア北海道」からのメッセージを発信しませんか?と呼びかけ、アンケートを配布しました。

メッセージ作成のためのアンケートへのご協力、ありがとうございました。

★アンケートには、3人の会員からご回答いただきました。札幌の中川さん、北広島の三國さん、帯広の工藤さんです。お忙しい中、大変ありがとうございました。質問項目別に、3人のご記入いただいた内容を紹介しますね。ナカヤも、質問2・3で回答します。

質問1 インストラクターや子育て支援関係者として感じている「子どものメディアの使い方」の課題や危機感(特にコロナ禍以降の長時間使用について)

*課題は「バランス」だと思います。適切な段階で使った方がいい、でも依存や、成長の妨げになってはいけないと感じています。

Web3、メタバースなど、これから数年で確実にネットを取り巻く社会が変わると思います。高校で情報の授業も加わり、プログラミングやITの知識をつけることは、テクノロジー好きな子どもにとっては、生きていく力となります。米国では、中学生がNFT(Non Fungible Token)や、DAO(Decentralized Autonomous Organization)を扱っているという話を聞きました。テレビなどのメディアではほとんど情報がありませんが、変化の波が来ています。暗号資産も絡むので、これからの時代を生きる子どもたちに適切なりテラシーをつけていく必要がある。そのためにも、使うことを過度に制限するのも良くないと思います。

だからといって、からだの発達段階の乳幼児期に無制限に与えることは良くない。AI時代だからこそ、人間にしかできないことや、健全な心身の発達が重要であり、それは体を動かすこと、自然の中に身を置き、観察することなどで培われると思うからです。

適切な時期に、適切に使う。バランスを意識して使う。ネットを消費するのではなく、「創造」に使う。ツールとして正しく怖れながら、賢く使う力がますます必要と感じています。

(札幌・中川)

*・保護者が子どもの長時間使用＝深夜までの使用を把握していない。あるいは、把握していても問題視していない事がみられる。その背景には、大人のネット依存があるのでは。子どもに制限したいが、そのために自分の使用も制限しなければならないから。大人が自分の時間を持ちたいためか、子どもをネットに預けている感がある。

・講師としてアンケートを取ると、学級で1割の子どもが平日で12時以降まで起きている子がいる。休日だと3時4時まで起きている子が1割はいる。

・コロナ禍ネット上で繋がりを求める子どもが増えたことは必然なのかと思うが、使用時間、マナーを家庭同士で確認することが必要かと思う。小学生の場合。

(帯広・工藤)

*2020 北広島市内 某中学校(433名)のスマホ&ゲーム機の使用実態調べ

スマホ保持86% 平日1時以内6% 1~2時間18% 2~3時間28% 3~4時間20%
4時間以上28%

使用実態について調査し、学校に問題提起したが、具体的な取り組みには至っていない。学校だけで取り組むだけの時間や体制がない。特に保護者の理解を得るのが難しい。コロナ禍拍車せめて、子どもたちに向けた「人権教室」で長時間使用が学力や心身に与える影響を啓発する程度に留まる。効果はあまり期待できない。(生徒は、そうだねー、でも魅力あるから で終わる)

何よりも保護者の理解が大事、保護者がその気にならなければ効果は期待できない。コロナ禍にあって、保護者にICTの長時間使用の様々な弊害について、どのように浸透させるかが課題

(日本医師会・日本小児科医会 啓発ポスター 「スマホの時間私は何を失うか」 学校だより 保健だより等で繰り返し啓発か)

子どもにとって、スマホやゲームに勝る魅力的な「もの」を地域やまちが創り出せるかが課題。

「魅力ある 子どもの居場所づくり」 例 世田谷プレーパーク 安平町

:従来の公園、既成のブランコ、シーソー、鉄棒などがあるようなお仕着せの遊び場と違い、一見無秩序のように見えて、「子供たちが想像力で工夫して、遊びを作り出すことの出来る遊び場」

地域で取り組めると、子どもの健全育成やアウトメディアに効果的・・・でも、様々な規制があり難しそう? (北広島・三國)

質問2 自分の知人や学校などや、講師としてうかがった先で相談された事例など

*相談ばかりではないが、(教育関係者に)聞いたこと。

・多いのは、不登校。昼夜逆転による場合に加え、コミュニケーション能力の低下による不登校。

学校に来て、タブレットに逃げ込んだり、友達と遊べなかったり学校生活を楽しめない。

・支援学級(情緒)の子どもに、静かにしているからと自由に朝からタブレットを使わせ、学級に行くとなく1日を過ごさせているということを目にした。

・ゲーム上での暴言、無視、誹謗中傷などのいじめ。

(帯広・工藤)

*具体事例 なし 話の中で 部活動内におけるライン外しが話題に・・・解決したとのこと

(北広島・三國)

ここで紹介した相談事例については、講演などの時に紹介してもらってかまいません。(ナカヤ)

質問2・中谷

* 12年間で、北海道の約6割にあたる約100市町村で、講演会や授業をしてきました。

直近の4年間では・・・

- 2019年：全道で57件（13管内：胆振14・宗谷1・オホーツク1・上川2・十勝6・石狩9・渡島3・後志8・空知1・根室8・日高1・留萌2・道外1）
- 2020年(コロナの影響)：全道で18件(13管内：胆振8・宗谷1・オホーツク2・上川1・石狩2・後志2・空知1・根室1)
- 2021年：全道で26件（胆振3・オホーツク1・石狩13・根室1・十勝2・後志1・渡島1・空知1・上川2・釧路1）
- 2022年(12月まで)：全道で35件(胆振12・オホーツク2・石狩9・根室3・十勝1・後志2・日高1・上川3・釧路1・宗谷1)

* うかがった先での相談や事例として聞いた内容から、「ネット・ゲームの長時間使用が関係している、小中学生の健康被害や発達障害」に強い危機感を感じています。

小学生のネット依存に関する相談など（2019～2020）

- 3年生（3件）ゲーム（スマッシュブラザーズ、荒野行動、フォートナイト）
睡眠不足・不登校気味、言葉が乱暴・卑猥、親の理解不足・しつけができない
- 4年生（3件）ティックトック・ユーチューブ・LINE・フォートナイト
睡眠不足・不登校気味・昼夜逆転、親への乱暴、幻覚「お父さんに殺される」
- 5年生（4件）フォートナイト・荒野行動・ゲームの攻略動画
睡眠不足・不登校気味・昼夜逆転、親への乱暴・会話ができない、ゲームの中でのトラブルが現実のけんかへ
- 6年生（3件）荒野行動・フォートナイト・ユーチューブ・LINE
睡眠不足・不登校気味・昼夜逆転、親がどうしようもない、ゲーム中に怒りタブレットを壊す、LINEで自分の裸の画像を送る

幼児のネット依存に関する相談など（2020）

- 「鬼滅の刃」の動画を見ていたら、関連動画にアニメから大人向けの画像に変わっていた。
- 鉄砲などの打ち合いや戦いもののゲームの画像を見ていたら、本物の血が流れるような画像に変わっていた。
- ゲームやYouTubeを見たくて、約束した時間内にやめることができない。（ごはんやお風呂、寝る時間に影響が出てしまう）
- ゲームに熱中しすぎて、今後は心配です。学校に行く頃には、勉強をしなくなるのではないかと・・・。
- ネットゲーム等の話で、友達関係で仲間に入れず、いじめにつながるのではないかと心配です。

小学生のネット依存に関する相談（2021）

●教育委員会の人の話

小学生：長時間使用・LINEのトラブル・フォートナイトでの長時間、チャットでのトラブル・保

護者の悩み(叱りすぎ・やめさせられない)クロームブックから、アマゾンのサイトをみて(打ち破ってHな本を見ていた。

中学生：依存になってしまって、不登校へ

●小学校高学年(自分のスマホを持っている子は少ないが)

オンラインゲーム(フォートナイト・スプラトゥーンなど)を高学年男子のほとんどがしている。長時間になる、寝るのが遅くなる。片頭痛で保健室に来る子が 増えている。運動不足で太ってきている。「フレンドコード教えて」と言われた。

●6年生担任・養護教諭：ゲーム依存のため不登校、親もどうしていいのかわからない。

ネット依存に関する相談(2021)

●小・中学校の校長先生(道北)

- ・ 昨年からの新型コロナウイルスの感染拡大は子どもたちがメディアに費やす時間を増大させ、小学生にして「運動不足」との診断を受ける子どもたちも現れました
- ・ 本中学校でも1年生にしてすでに、同じゲームソフトの使用時間が7000時間という子もいます。小学校6年間の授業時数が5785時間、中学校3年間で3045時間。この生徒は中1だったので、小学校6年間学校で勉強してきた時間より1000時間以上多くゲーム漬けです。で、決して特別なこではないというのが現状です。コロナ禍で小学生のメディア時間はどんどん増えました。
- ・ そのまま中学校に上がってくるのでいざ、入試を目の前にして学力問題が壁となり、不登校も増え、家庭でのゲーム依存も増えるという悪循環です。啓発のための講演活動や出前授業もブレーキがかかりその間に…本当に危機意識が高まっています。
- ・ 本校(中学)の特別支援学級の1年生もゲーム依存になり、昼夜逆転お母さんがゲームをとりあげようとしたら、ナイフを持ち出して…という状況です。病院を紹介してほしい。

●小学校管理職の先生(道央)

・ 近年児童によるメディアの利用の仕方について問題となっているが、本校もゲームやインターネットにおけるトラブルが発生している。学級担任から児童によるメディアの長時間の利用や過激なゲームの使用によって、「朝の表情が暗い。」「声をかけても反応が鈍い。」といった悪影響が引き起こされているのではないかと報告があった。また、保護者から児童によるメディアの利用について、「ボイスチャット内での暴言が聞こえる。」「動画サイトを長時間視聴している。」といった相談もあった。加えて、児童が家庭の事情により家に一人でいる時間が長く、コロナウイルスによる外出の自粛も相まって、メディアに接する時間が増え、依存しやすい状況にある。

中学生のネット依存に関する相談(2020~2021)

●依存になってしまって、不登校へ(複数)

●ゲーム依存になり不登校になったため、親に取り上げられた。

どうしてもゲームがやりたくなり、誰もいない友達の家(合鍵の置き場所を知っていた)に侵入。何度もやったため、不審に思った家人がカメラを設置。犯行がわかり補導された。

●学校に本州の中学生から電話があり「お宅の中学校の〇年生がゲーム中に約束したお金を払っていない」と怒鳴られた。

●札幌の自称大学生とSNSを通じて親しくなり、車で会いに来てくれたのでドライブした。

事件・事故(2020～2022)

●小学校高学年女児

ティックトックに湯上りのバスタオル姿で投稿。ネットパトロールでみつかる。

●中学生女生徒

自傷行為についての投稿が多いサイトをよく見ている。薬購入・自傷(ボディーステッチ)

●小学校高学年女児

「ひまトーク」を利用して、複数の成人男性とつながり裸の写真を送る・実際に合う・強姦されたテラーノベル(カルト)をよく見ている。自傷行為も増えた。

質問3 発達段階として、乳幼児期・小学生・中学生・高校生のそれぞれの時期に関わる大人(保護者・園や学校の先生・行政など)、子どもに伝えたいこと。具体的な内容が望ましい。その際情報誌に載せた、「WHOの提言」や「日本小児科医会の提言」を参考に、特に北海道の子ども達のために強調したい内容を寄せてほしい。

* アンデシュ・ハンセン著「スマホ脳」第7章 バカになっていく子どもたち

遊ぶ変わりにタブレット端末やスマホを長時間使っている子どもは、のちのち理論科目を学ぶために必要な能力を習得できないなど、この本(特に第7章)には大切なことが書かれています。

消費する側ではなく創造する側のスキルをつけるために、本来の人間としてのからだと心を健全に育てることが必要。AI時代の今だからこそ、豊かな自然があり、広い北海道はバランス良い子育てに素晴らしい環境と思います。

(札幌・中川)

* 小中学校の入学時、又はPTA総会等で、保護者向けに

内容

① 平成30年 全国家庭教育支援研究協議会 「子育てにおけるスマホと生活習慣」 文科省主催
講演 川島隆太氏 VTR(YouTube 動画)かダイジェスト版 約1時間

講演内容は具体的で説得力があり理解しやすいと思います。

時間が無ければ、「いいとこどり」でダイジェスト版を作成し啓発する方法があります。

人権教室では、子どもたちに、ダイジェスト版(スライド5～6枚)を用いて説明しています。

② 「スマホ社会の落とし穴」 (清川輝基 内海裕美 共著)・・・具体的で取り組みの参考になる。

第5章 スマホ社会から子どもたちを守るために(教育現場で取り組まなければならないポイント)

○メディアリテラシー教育・・・教育現場でメディア対策に取り組むポイントを5つのステップに分けて提案

○メディア漬けの生活から子どもたちを守る アウトメディア・・・取り組むルール 心得 ポイント紹介

※学校現場の現状は、「働き方改革」しなければならないほど過酷な職場実態がある。その中で新たな取り組みを行うことは難しい。そこで外部講師等（子どもとメディアインスト&NTT・KDDI等）を招き教師の負担を軽減し取り組むことで、実現の可能性あり。

例) アンケート様式作成 計数取りまとめ 分析 学校に提示 講師として学校に出向く (PTA総会等・人権教室 (人権擁護委員とのコラボも効果的)・・・ 実証済み (三國)

何よりも、アウトメディアに対する教育委員会の理解が不可欠・・・体制強化 支援策等

* 小学生高学年か中学1～2年生の児童・生徒に

内容 日本医師会・日本小児科医会 啓発ポスター 「スマホの時間私は何を失うか」

(北広島・三國)

*子どもたちは、自分が認められ安心して過ごせる居場所を求めています。家庭に学校にこの居場所、自分が自分として認められ、活躍できる場がない子は、ネットの世界に居場所を求め居心地のよい仮想空間を自分の居場所として、しがみついているように思います。

子どもたちが、真に求めていることは、私がアンケートの最後に聞く項目「あなたは休みの日に家族と何がしたいですか?」の答えにあります。それは、家族とのコミュニケーション…旅行がしたい、ドライブ、ご飯を食べる、ボードゲーム、おでかけ・・・が上位を占めるのです。

大人が大人になってから、手に入れたおもしろくて手放すことができないおもちゃに夢中になっているうちに、自分達が経験してきた大切な物を我が子に教えることなく、大切な我が子の成長を見ること無く時間を浪費しているように思います。子どもに今、何が必要なのか、子どもが何をしているのかを見てあげてほしいと思います。

(帯広・工藤)

* 「ネットやゲームの長時間使用(依存傾向)による、乳幼児から中学生の健康被害を予防するために」
保護者へ

- ・発達段階に合った「睡眠時間の確保」を、ルールの最優先に!～寝室に置かない～
- ・発達段階に合った「ペアレンタルコントロール」を!～利用の前が肝心～
- ・ネット・ゲームのない「子どもと一緒に過ごす時間」を暮らしの中に!～子どもの願いです～

学校・行政・地域の大人へ

- ・五感・身体を使った「遊びや体験・交流」を、「子どもの日常に取り込む」本気の取組を!
～都市部と郡部で大きく違う、児童生徒の放課後・休日の生活環境から見直したい～
- ・児童生徒や保護者への「ネット・ゲームの依存や健康被害」についての学習の機会を!
～「子どもとメディア北海道」のインストラクターを活用してください!～

(白老・中谷)

コロナ禍になり、ネットやゲームの長時間使用による子どもへの影響・学校現場の課題を聞く機会が多くあり、「子どもとメディア北海道」としてメッセージを出したい!と、先走ってしまいましたが、今回のアンケートを拝見して、これまで伝えてきたことを、インストラクターそれぞれが、自分の知識や役割を生かして伝えていけば良いのだなあと思いました。みなさんの仕事や活動、インストの啓発活動に、今回のアンケートの内容を生かしていただければ、幸いです。(ナカヤ)

2022年8月から2022年10月までの活動報告(28件)

月日	テーマ・内容	行事名・主催者等	担当
8月18日	子どもたちの未来を守るネット対策～ネット社会に生きる子どもたちの未来のために～	更別村教育委員会。学校運営協議会 (オンライン)	中谷
19日	指一つで広がる子どもをとりこにさせる世界～しらなかった・・・とならないために～	苫小牧ファンステップ主催 (育児サークル)	中谷
25日	厚南子育て支援センター 「プレママさん向けミニ講座」	厚真町教育委員会	櫻井
28日	ゲーム・スマホ社会を生きる子どもたち～子どもを守り、未来につながる使い方～	根室PTA連合会等研修会 (オンライン)	中谷
29日	札幌市東区「絵本で感じる親子のきずな」	札幌市こども未来局主催 親育ち応援団連携講座	岸
30日	3・4年生授業、5・6年生授業	白老町立竹浦小学校	中谷
9月9日	ネット依存から子どもを救う(オンライン)	(株)コーチングプラス	中谷
15日	今必要な家庭教育支援について ～スマホ社会の子どもたち、その現状と対応～	上川教育局	中谷
27日	就学児健診時講話	白老町立竹浦小学校	吉原
28日	「未来を守る電子メディア講座」&「勉強会アドバイザー	養護教員会東部A/むかわ地区研修会 講演会	櫻井
	ネット・ゲーム依存から子どもを守る～予防のために大人のできること・すべきこと～	白老町子育て世代包括支援センター	中谷
30日	子どものまなび塾「読み聞かせをはじめよう！」 午前コース、夜コース	札幌市中島児童会館主催 ボランティア養成講座	岸
	就学児健診時講話	白老町立萩野小学校	中谷
10月3日	就学児健診時講話	白老町立白老小学校	吉原
4日	豊幌小学校4・5・6年生	江別市教育委員会	中谷
	文京台小学校5年生		
5日	ネット社会に生きる～子どもと電子メディア～今、大人がやれること～	様似町教育委員会主催。様似小・中学校コミュニティスクール運営委員会	野澤
7日	子どものまなび塾「読み聞かせをはじめよう！」 午前コース、夜コース	札幌市中島児童会館主催 ボランティア養成講座	岸
11日	就学児健診時講話	黒松内町教育委員会	中谷
13日	子どもの発達と電子メディアの影響について 日高町立厚賀小学校	日高町教育委員会・就学児健診時講話	野澤
14日	子ども達への電子メディアの影響	令和4年度札幌市私立保育連盟主催研修会	諏訪
	子どもの成長とスマホ、ネット、ゲーム～身体への影響と依存について～	札幌市立平岡中央中学校 PTA 研修会	中塚

14日	子どものまなび塾「読み聞かせをはじめよう！」 午前コース、夜コース	札幌市こども人形劇「こぐま座」主催 ボランティア養成講座	岸
	子どものネット健康問題を考える～望ましい生活習慣とルールづくり～	幌加内町PTA教育講演会	中谷
19日	バンビ学びラボ 「地頭を育てる！絵本の子育て」	千歳市教育委員会主催	岸
	子どもの発達と電子メディアの影響について 日高町立日高小学校	日高町教育委員会・就学児健診時講話	野澤
21日	子ども達への電子メディアの影響	2022年度ファミリーサポートセンター 子育て支援者養成講座(旭川)	諏訪
24日	スマホ、ネット、ゲームが子どもの成長に与える影響～ルールを決めよう～	札幌市立ノホロの丘小学校 家庭教育 学級	中塚
31日	町内小学校就学時検診時講話	厚真町教育委員会	櫻井

【インストラクターのつぶやき】（活動報告に添えられたコメントから紹介します）

【札幌・中塚インストラクター】

今回は中学生の保護者の方にお話しする機会をいただきました。参加者全員がすでにスマホを持たせていましたが、みなさんルールを決めていました。ただ、ルールはあってもどうやって守るのか方法は考えていなかったと、リビングでのみ使うなどもう一度話し合おうと思います等の声がありました。

また、ICT 担当の先生も参加してくださり、講演後、タブレット授業や、自主学习にタブレットを使わせることへの不安を話してくださいました。調べものもタブレットではなく、辞書、辞典を使って欲しいとおっしゃってました。私も職場の塾では、紙の英和辞典、国語辞典を使うよう進めています。いくつもの候補の中からふさわしい意味を探したり、正しい使い方や例文を見て、時間はかかってもその分しっかり覚えているなど感じる人が多いです。

【札幌・岸】

全8回で絵本とネットの子育ての違いをお話してきました。一度ご依頼を受けると、各教育委員会の方が「もっと色々な方にお話を」と、リピートで講演の場をご依頼下さっています。それほど切実に子どもたちの育ちへの不安を感じていらっしゃるのでしょうね。私ももっと情報をアップデートしてお伝えしていかなければならないと思っています。

【厚真・櫻井インストラクター】

今回、あらたな試みとして講演後に中学生がグループごとに自らのメディア利用の問題点を考えて、改善方法を検討して発表するという試みを生活指導の先生と行いました。個人でのばらつきがあるので難しい点もありましたが、生徒同士でやめにくくなるシチュエーションで「共感」したり、意見の食い違いで「指摘や討論」をしながらルールを見直す生徒たちを見て担当の先生と「やってよかった」と感じました。

また、養護教員会の講演では、講演後に研究発表に向けた勉強会にもアドバイザーという立場で参加させていただきました。活発な意見交換や疑似応答をさせていただく中で、先生方の問題意識の高さを肌で感じ今後も協力して啓発活動を活発にしていこうと約束しました。

※ついでに、子どもとメディア北海道の宣伝もおきました！！

厚真町の就学児健診での講演はこれからですが、昨年から就学児健診の講演は、教育委員会の担当の方と相談して明確な目的を決めています。

- ① 入学を機にメディア利用の明確なルールを決めてもらう。
- ② 体験学習のメリットを伝えて、学童保育や放課後子ども教室の利用者を増やす。

上記の2点を達成することで、メディア利用を減らしていけるのではと考えています。